

とちぎ 米麦改良

令和4年1月
第125号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700



新年のごあいさつ

(公社)栃木県米麦改良協会 代表理事会長 菊地 秀俊

新年明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭にあたり、会員並びに関係者の皆様に新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方には日頃より、当協会の事業推進に多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

地球規模で拡大を続け、一向に収まる気配がない新型コロナウイルスによって、世界中で多くの人々が生命の危機と生活の困難に直面して、早2年近くが経とうとしています。ワクチン接種等により、国内においてはいったんは感染者数が減り、日常を取り戻す形に近づいていますが、国外に目を向けますと、新たな変異株が発生し、再拡大しています。農業においても、ワクチン接種の進捗や感染者の減少に伴い、中食・外食需要が回復しているとの報道もなされていますが、依然として主食用米の販売不振が続いており、主食用米の需要動向の正確な見通しが困難となっています。このため、JAグループ栃木では、4年産米においては、主食用米からの転換を3年産米より約6千ha拡大する方針を決めました。3年産米についても大幅な作付け転換に取り組んできましたが、もはや一刻の猶予もできない状況になっており、苦渋の選択ではありますが、農業者の皆さんのご理解とご協力をお願いする次第であります。今後も、国民一人一人が、新型コロナウイルスの感染防止や拡大阻止のためにできることを今一度確認して、コロナ禍を乗り越え、一日も早い社会・生活の復興を切望してやみません。

さて、令和3年産の稲・麦類・大豆生産について振り返りますと、水稻の作況指数は101の「平年並み」となりました。出穂期まで総じて

天候に恵まれ、お盆過ぎに一時天候不順がありましたが、概ね順調に生育しました。また、麦類は播種以降、暖冬と適度な降雨により生育は早まりましたが、5月下旬以降の曇雨天により、二条大麦を中心に穂発芽やカビ類の発生が見られ、作柄は「やや不良」となりました。大豆は播種以降、比較的天候に恵まれましたが、お盆前後の降雨の影響で、紫斑病の発生が懸念されます。

このような中、種子生産につきましては、麦類の一部で契約数量を下回りましたが、契約対比99.5%となり、ほぼ目標の数量を確保することができました。現在検査中の水稻及び大豆につきましては、契約数量の確保に向けて、関係者の皆様の協力を得ながら、取り組んでいるところです。

主要農作物種子法の廃止を受け、新たに県が制定した「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」が施行され、今年4月には3年目がスタートします。当協会は、稲、麦類、大豆の奨励品種の種子の生産計画及び供給に関する計画の策定者として栃木県知事から指定を受けましたが、引き続き、条例の下、稲、麦類、大豆の優良な種子の確保と供給に取り組んで参ります。

今後とも当協会は公益社団法人として、稲、麦類、大豆種子の生産・供給などの取組を通じて、国民生活に不可欠な米や麦、大豆の安定供給と品質向上に努めて参ります。皆様方のお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、新年が皆様にとりまして、幸多い年になることを心からご祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

令和3年産水稻作の概要と 令和4年産水稻の生産技術対策について

栃木県農政部経営技術課

1 令和3(2021)年稲作の概要

(1) 生育経過

令和3年は、2月までは降雨が少なかったものの、3月以降は降水量が平年並みからやや多く、5月の各水系におけるダム貯水率は平年並みの水準であったことから一部地域を除き、代かきや移植作業は概ね順調に行われました。

5月は、活発な前線の影響により曇雨天の日が多く日照時間が短かったため、5月下旬の生育調査では草丈はやや高く、やや軟弱徒長気味の傾向でした。

関東甲信の梅雨入りは平年より7日遅い（前年より3日遅い）6月14日頃、梅雨明けは平年より3日早い（前年より16日早い）7月16日頃でした。7月前半は本州付近に停滞した梅雨前線により曇りや雨の日が多く、葉いもち感染予測モデル（BLASTAM）では感染好適とされる日が県内各地で多く見られ、その後、葉いもち、穂いもちによる被害が散見されました。

7月後半からは高気圧に覆われ晴れの日が多く、梅雨の期間が短かったことから、6・7月の日照時間は平年並みから多くなりました。草丈、茎数や生育診断値（葉色×茎数）は平年比103%と平年並に推移し、5月上旬移植コシヒカリの生育診断ほの出穂期は7月24日～8月8日と平年より1日程度早くなりました。8月は月上旬までは晴れて厳しい暑さの日が多く、その後、中旬から下旬の前半にかけて前線が停滞して雨の日が多くなりました。9月上旬までは雨の日が

多く収穫作業は前年より遅れ気味でしたが、9月下旬の好天により収穫が進み、10月上旬までには早植の収穫が終了し、普通植の収穫も10月末にはほぼ終了しました。

(2) 収量・品質

本県の令和3年産水稻の作柄は「平年並」となりました（表-1）。生育全般にやや高温で推移し、穂数と総粒数（穂数×一穂粒数）が確保され、玄米千粒重も平年並になったことによりります。

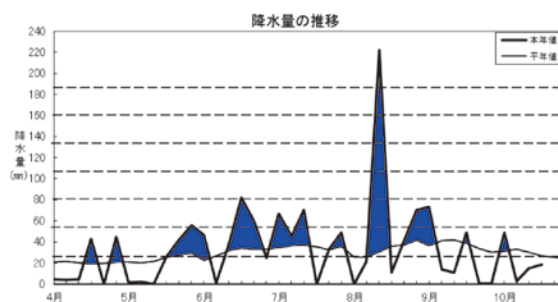
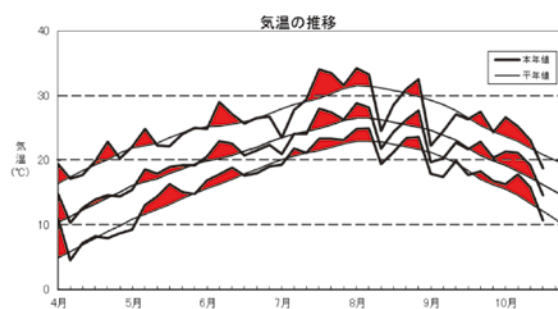


表-1 水稲作柄概況 (12/8 関東農政局公表)

項目/地域	県北	県中	県南	全域
単収 (kg/10a)	568	547	518	549
作況指数	100	101	102	101
前年差 (kg/10a)	+12	+14	+4	+11

*作況指数の元となる平年収量は過去5か年の平均

表-2 農産物検査結果 (10/31 関東農政局公表 R3年産は速報値)

年産	等級 (%)			
	1等	2等	3等	規格外
R 3	96.5	3.2	0.2	0.1
R 2	90.9	8.2	0.8	0.2
R 元	92.9	6.2	0.4	0.5

10月末時点のうるち米の1等米比率は96.5%で昨年の90.9%に比べ高く、平成26年産に並ぶ過去最高水準の高さでした(表-2)。特に、着色粒(カメムシ類による被害等)が昨年より少ないことが、1等米比率の向上につながりました。

2. 令和4(2022)年産水稲生産技術対策

(1) 土づくりと水管理

水稲の収量・品質の向上を図るため、深耕の実施や、たい肥・土づくり肥料を積極的に施用するとともに、土壌診断に基づく適正な施肥を行いましょう。過剰な施肥による環境負荷を減らし、コスト低減にもつながります。また、稲わら、麦わらをすき込んだときや、中干しの時期に長雨が続く場合は、落水して根に酸素を供給し健全化に努めるなど、根張りを良くして登熟後期まで根の活力を維持させ、登熟向上を図ることが重要です。

(2) 病害虫の防除

①斑点米カメムシ類

令和3年産の農産物検査の2等以下格付けに占

める着色粒の割合は19.4%と昨年同期の56.1%より低くなりました。この要因としては、8月中下旬に降雨が多く、斑点米カメムシが活動しにくかったことが考えられます。これまでもカメムシ類による被害が、等級を下げる主な要因となっています。出穂期前後のカメムシ類の密度を低くすることで被害を低減できますので、本田内の除草及び地域全体で休耕地や畦畔などの草刈りの徹底と、薬剤による適期防除を実施しましょう。

②イネ縞葉枯病

イネ縞葉枯病の原因が理解され対策の実施が進んできたことから、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの保毒虫率は減少傾向にあります(図)。しかし、温暖化などによりイネ縞葉枯病の発生が県南部から県中北部へと広がっており、令和3年においても被害が散見されています。

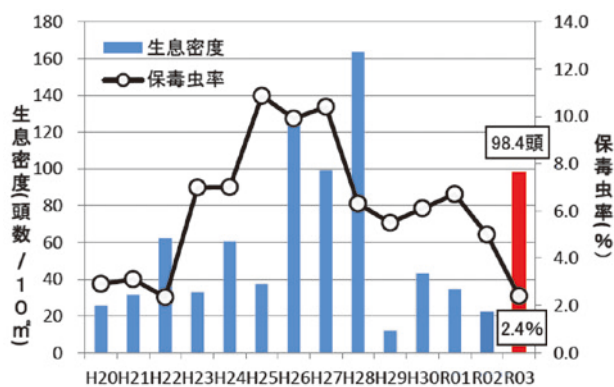


図 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移(12/8 栃木県農業環境指導センター)

被害を回避するため、①抵抗性品種「とちぎの星」などの作付拡大、②ヒメトビウンカを増やさないよう畦畔や休耕地のイネ科雑草の除草、③病気を媒介するヒメトビウンカに効果的な薬剤による防除、④収穫後の耕起により越冬数を減らす等の取組を実施しましょう。

令和4年産米の生産・集荷・販売に向けて

全農栃木県本部 米麦部

1. はじめに

本会米麦事業につきましては、日頃より多大なるご協力・ご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和3年産主食用米は、生産者や集荷業者・団体が自主的な判断により「需要に応じた生産」を行い収益性の向上が図られるよう、県農業再生協議会は市町農業再生協議会へ「県・市町の主食用米の作付参考値（面積）」を提示しました。

J Aグループも、引き続き「農林水産業・地域の活力創造プラン」にかかる米穀事業改革の一環として、「実需者への直接販売」、「買取販売」の拡大等へ取り組みを進めています。

需給見通しについては、令和3年産米を取り巻く需要環境が近年になく大幅に緩んでおり、令和2年産米の持越在庫が大量に発生した影響によって、令和4年6月末の民間在庫は213～217万トンを見込んでいます。

令和5年6月末の民間在庫の適正化に向け、令和4年産主食用米の大幅な生産抑制に取り組むことが課題となります。

私ども全農栃木県本部では、J A、行政、関係機関とともに需給の均衡と生産者手取りの確保という視点をもってとり進めてまいります。

2. 令和3年産米の作柄概況

全国における主食用米の作付面積は130万3千ha（前年比▲6千ha）となりました。天候不順の影響により東海以西は登熟が平年を下回る地区があったものの、北海道、東北、関東の作況が良好であったことから作況指数は「101」の「平年並み」、予想収穫量は701万トンとなりました。

本県における主食用米の作付面積は50,600ha（前年比4,300ha減）となりました。8月の天候不順による影響が懸念されましたが作況指数は「101」の「平年並み」、予想収穫量は27万8千トン（前年比▲1万8千トン）、となっています。

3. 令和3年産米の集荷・販売状況

「令和3年産米の生産・集荷・販売方針」およびその具体策に沿って、J A・全農が一体となり、集荷結集に取り組み、全農への主食用米の販売委託数量は9万トンを見込んでいます。

販売面では、複数年契約を主とした事前契約取扱数量の上積み、実需者への直接推進により栃木米を安定的に使用する取引先への供給拡大と新規販売先の開拓に取り組み、需給や作柄変動に左右されない固定実需のさらなる結び付けを図りながら販売を進めています。

特に消費宣伝・販売促進活動では、web媒体を活用した広告宣伝・ネット販売、キャンペーン等によるブランドイメージ・認知度向上を図り、指名購買の拡大に取り組みます。



有名大食いYoutuberロシアン佐藤と
キャンペーンコラボ（令和3年4～7月）



「とちぎ米」TV-CM「コメ・コレクション」
令和3年9月25日から放送開始

4. 令和4年産米をめぐる情勢

令和4年産米は、令和3年産米の生産量が701万トンと全国需要を下回りましたが、人口減少・高齢化やコロナ禍影響による需要の減少や、持越在庫が大量に発生した影響により需給が緩和傾向にあります。令和5年6月末民間在庫を需給が均衡するとされる水準（200万トン以下）とするためには、生産者や集荷業者・団体が一体となり令和4年産主食用米の大幅な生産抑制に取り組むことが必要となっています。

5. 令和4年産米生産・集荷・販売の取組

令和4年産米生産・集荷・販売については、県農業再生協議会と連携し県および市町別作付参考値（面積）を踏まえ、令和3年12月に策定した「令和4年産米にかかる基本方針」や、集荷・販売については「令和4年産米の生産・集荷・販売方針」に沿って取り組みます。

引き続き令和4年産米において、「需要に応じた生産」、複数年契約など事前契約にもとづく「契約的生産・販売」を進め、広告宣伝・販売促進により、JAグループ栃木の栃木米の認知度および指名購買率の向上を目指していきます。

さらに、生産者手取りの最大化に向け、国の「農林水産業・地域の活力創造プラン」に対し、「実需者への直接販売」や「買取販売」のさらなる拡大等に取り組みます。また、主食用米以外について、引き続き水田フル活用の視点による需要に応じた水田活用米穀の作付を推進し、主食用米の需給と価格の安定および水田営農の持続性を基本として取り組みます。現状と課題を踏まえ、生産者・JAおよび実需者・消費者へ、しっかりと向き合い提案してまいります。引き続き、皆様方のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



NewDaysでとちぎの星を使用したおにぎり販売
令和3年11～12月



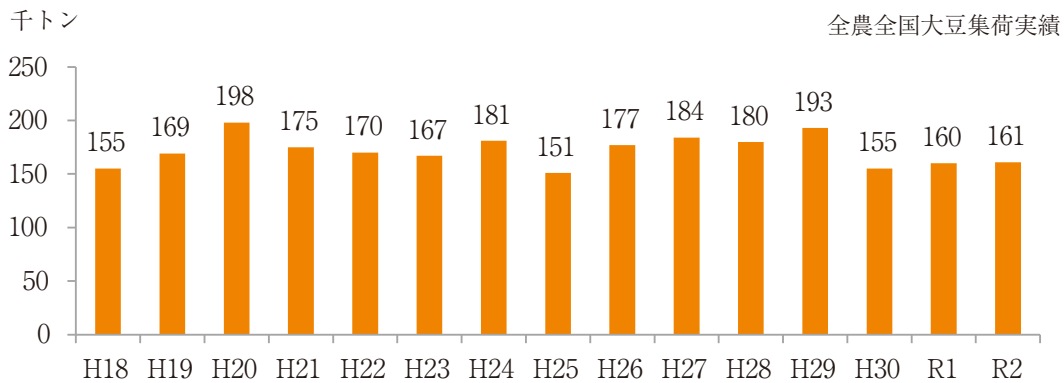
— 国産大豆生産情勢 —

J A全農とちぎ 米麦部

1. 令和2年産大豆の集荷結果について

令和2年産の本会全国大豆集荷数量は約160.5千トン(前年比100%)となった。北海道は前年を上回る数量で推移したが、東日本地区や東海・近畿地区は、降雨による播種遅れ等による生育不良、九州地区では台風による生育被害も受け集荷数量は生産計画を下回っている。

栃木県では作付面積が微減したことに加え、天候不順の影響により集荷数量は前年を下回る約2.8千トンにとどまった。



2. 令和3年産大豆の生産動向について

(1) 全国の生産計画について

令和3年産の全国生産計画面積は約118千ha(前年比103%)、計画数量は約189千トン(5月末基準)となっている。大豆の需要の高まりの影響により、作付面積の増加、集荷見込みが微増となっている。

(2) 栃木県産の生産動向について

栃木県の作付面積は約1,984ha(前年比103%)、生産者数は465名(前年494名)となり生産者数は減少したものの、作付面積は上回った。

今後も大豆作の維持拡大を図るとともに、安定多収生産の普及に努め、栃木県産大豆の品質向上と安定供給を実現していきたい。

■令和3年産大豆の生産計画(地区別5月末時点、10トン単位でラウンド処理済)

地区	作付面積 (ha)					集荷見込 (トン)				
	※平成30年、令和元年、2年産は実績					※平成30年、令和元年、2年産は実績				
	30年産	元年産	2年産	3年産	3年産/2年産 (%)	30年産	元年産	2年産	3年産	3年産/2年産 (%)
北海道	34,237	33,126	33,461	35,544	106	53,230	59,037	61,675	65,470	106
東日本	40,287	39,475	38,671	38,926	101	52,503	54,954	50,067	57,630	115
西日本	20,006	24,951	24,142	24,901	103	19,568	27,834	25,293	31,620	125
九州	19,340	18,934	18,697	19,159	102	29,897	18,182	23,493	34,880	148
合計	119,870	116,485	114,970	118,530	103	155,198	160,007	160,528	189,610	118

水田での大豆の本作化で 収益向上に取り組んでみませんか

- 大豆は、主食用米に比べて、労働1時間あたりの収入額が高い作物です（下図）。
- 各種交付金を活用することで、主食用米を上回る収入が期待できます。
- 今後も安定した需要が見込まれ、水田経営でもメリットが大きい大豆「里のほほえみ」を栽培体系の中に取り入れてみてはいかがでしょうか。

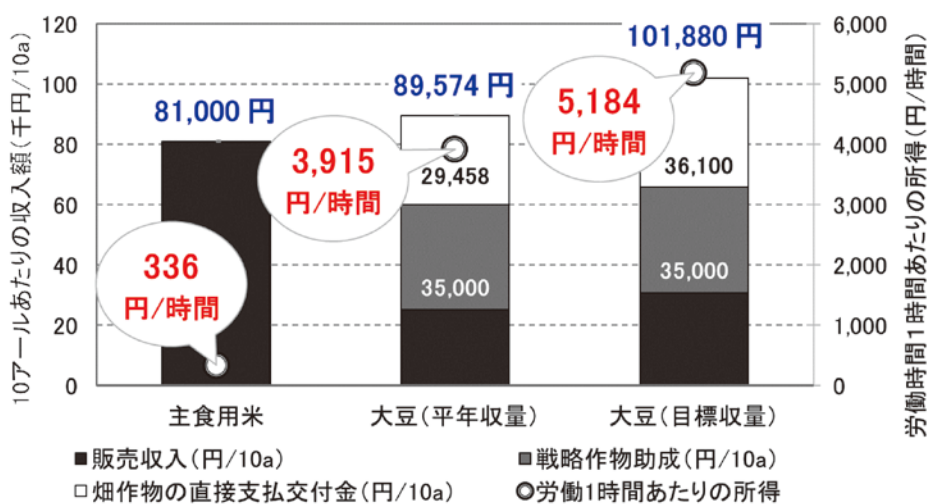


図 令和3年産の主食用米と大豆の10アールあたりの所得比較

※主食用米は、9,000円/60kgで計算しています。
 ※水田で大豆を生産した場合は、戦略作物助成35,000円が助成されます。
 ※畑作物の直接支払交付金はR2～R4産の1等Aランク交付単価で算出しています。
 ※令和4年産の詳細な支援内容については、今後提示予定です。

栃木県産大豆が求められています！

里のほほえみで作った無調整豆乳！
 コーペデリ ※栃木県産大豆指定契約実需

濃厚でクリーミーな味わいで飲みやすく、料理にも使いやすい！

牛乳の代わりにコーヒーに入れてソイラテにしても美味しい、今までに出会った豆乳で最高の味！

※消費者からの声



現在、県内では約3,000トンの集荷があり、その内約1,600トンが契約販売となっています。近年、栃木県産大豆を求める実需は増加しており、契約希望数量だけでも2,400トンを上回る要望が来ています。さらに、栃木県産大豆を使用した商品は増加傾向にあります。

栃木県・JA全農とちぎ

(公社)米麦改良協会情報

◆令和3年産大豆種子下見指導会等について

令和3年産大豆種子について、各種子場JAにて下見指導会が12月上旬～中旬に実施されました。農産物検査員等の指導の下、各種苗生産者が調製を行っている製品について、入念な確認が行われました。なお、生産物確認及び農産物検査は12月下旬から実施されています。



下見指導会の様子 (JA なす南)



下見指導会の様子 (JA なすの)

◆大豆種子の規格と令和3年産種子の確保について

栃木県産大豆種子の規格は合格種子、準種子A及び準種子Bがあります。原則としては合格種子のみの確保を行っていますが、天候不順による作柄不良や急激な需要増加により種子不足が懸念される場合は、準種子A及び準種子Bの確保も実施しています。令和3年産大豆種子については合格種子に加え、準種子A及び準種子Bの確保を行います。

表. 大豆種子の被害粒及び未熟粒等の最高限度と価格差について

規格	被害粒及び未熟粒等の最高限度	大豆種子生産者価格差
合格種子	10%	—
準種子A	20%	合格種子に対し90%
準種子B	30%	合格種子に対し85%

◆大豆種子生産見込数量について

令和3年産大豆種子については、着莢数は平年並でしたが、小粒傾向となっており、令和3年12月17日時点での生産見込数量は54,780kg (契約対比 約91%) となっています。種子不足解消のために、1袋でも多くの出荷をしていただきたく、種苗生産者並びに関係者の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

◆種子生産体制強化検討会第2回幹事会（大豆分科会）

大豆種子生産効率化の検討を目的として、種子生産体制強化検討会第2回幹事会(大豆分科会)が令和3年11月10日に那須塩原市下中野大豆組合色彩選別調製センターを会場に開催されました。幹事会には種子生産者並びに種子生産JA担当者等約25名が参加しました。

今回の幹事会では、色彩選別調製機器による種子伝染性病害粒の除去程度の確認を実施しました。本幹事会の内容については精査された後、大豆種子生産における課題解決や大豆種子生産効率化に向けた検討材料として取り扱うこととなっております。



幹事会の様子



使用した色彩選別機

◆令和3年度第4回理事会の開催結果について

令和3年11月8日（月）に第4回理事会がJAビル大研修室で開催されました。

協議事項の第1号議案「令和3年度残量処理計画（案）について」は、協議の結果、原案のとおり可決承認されました。

報告事項として、下記の6件の報告が承認されました。

- (1) 令和3年度上期事業報告について
- (2) 令和3年産麦類種子生産実績及び令和4年産用需給状況について
- (3) 令和4年産麦類種子生産計画について
- (4) 令和4年産麦類種子生産者価格について
- (5) 令和2年産種子事故処理負担金について
- (6) 令和3年産種子事故処理負担金について

